

橋本住職を導師に営まれた大聖観世音菩薩像の開眼供養法要



先代十七回忌に合わせ 大聖観世音菩薩像を建立

曹洞宗見性院 熊谷の新たな名所に

埼玉県熊谷市の曹洞宗見性院で4月26日、橋本英樹住職が先代・橋本俊英氏の十七回忌等の記念事業として発願した大聖観世音菩薩像「熊谷観音慰霊塔」の開眼供養法要を厳修した。橋本住職は「6・5の観音様が熊谷の新たな名所になることを願っている」と語った。

開眼法要に先立って先住忌・寺族忌法要が営まれ、十七回忌を迎えた前住職、十回忌を迎えた橋本住職の叔父の義弘氏、三十三回忌を迎えた実弟・正樹氏に供養の誠を捧げた。義弘氏の追善供養のため、義弘氏の住居跡地に蓮華座観音菩薩像を建立するとともに、本堂の須弥壇、灯明なども一新した。

橋本住職は俊英氏について「見性院は1945年の熊谷空襲で焼夷弾を被弾し、本堂が全焼した。戦後、先代和尚が檀信徒の方々と共に伽藍を復興し、現在の見性院の基礎をつくった。ハングリ―精神のあるタフな和尚だった」と回想した。今後の見性院については「次は境内にカフェ・レストランを開きたい。結婚式が行える第2会館も計画している。住職人生もいよいよ後半戦。利他の気持ちで前進していきたい」と話した。

(奥西極)